なるべし。蓋は停立せる傍觀者の外に、他の通行する者も亦與に此の「受難者」を嘲笑しつゝ往き來りし故なり。

磔刑は言語道斷、懼るべき死刑なりき。親しく之を目撃したりしシセロは、之を總べての刑罰の中最も殘酷にして醜辱なる刑罰なりと曰へり。彼は猶ほ附加して曰く、「此の刑罰をして羅馬人の身體に觸れしむる勿れ、否其の心にだも目にだも耳にだも觸れしむる勿れ」と。此の刑罰の猶ほ存せられしは、其の叛逆人、及び奴隷の死骸に汚名を加へん手段たるが故なり。活ける人を斯かる觀玩の位置に懸くるほど不倫にして忌はしき事物あるなし。此の如き觀念は蛇蝎の如き惡蟲を釘殺し、之を公に暴露して、以て復讐の快樂を取りし習慣より暗示せられしものなるべく、設令其の生命をして其の肉に釘つと同時に絶たれしむるも、猶ほ威るべき死たるを免れず。況んや其の犧牲の通常釘たれたる手足の陰痛と、充血したる脈管の痛楚と、猶ほ甚しきは着々加はり來る耐へ難き渴燥を持して、二日三日も生存するに於てをや。況んや更に刻一刻新しき苦痛の起る毎に之を避けんとするも、身を動かす能はずして、一擧一動悉く新なる疼痛の原因となるに於てをや。

然れども吾人は今此の震慄すべき光景より轉じて、**イエス**が、如何に剛毅なる精神強靭なる忍辱と愛とを持して、此の十字架の恥辱と殘酷と恐怖とに打ち克ちたるかを案ずるを喜ばざる能はず。恰も夕陽が其の燦爛たる光榮を以て敗池敗溝を金水に變じ、其の光耀に當る凡の汚物を美化する如く、「彼」は此の世の卑賤なる物、姦惡なる物の記號なる其の十字架を變じて、此の世の最も高潔なる物、光榮なる物の記號となしたり。今や「彼」の身は動くこと能はざるも、其の頭は自由に垂れて、己の脚下に起る所の事物を見得るのみならず。又自由に言語することを得たり。「彼」は時を隔てゝ七言を發せり。此れ皆載せて聖書に在り。嗚呼是れ實に吾人が今日猶ほ「彼」の心情を觀、此の十字架が「彼」に銘せし印象を見つべき七の窓戶なりき。此の七言は**イエス**が昨日其の審問を受くるの際に表彰したりし平靜と威嚴とを、此の際猶ほ害ふなくして維持せることを證し、「彼」が從來其の徳性を顯著ならしめし所の一切の品質を最も圓滿に發揮したり。「彼」は其の苦痛に克つに**ストイク**者流の冷酷を以てせず、自個を忘るゝ愛

を以てしたり。「彼」は其の十字架を負ひつゝ悲哀の道に惱むに當りて、エルサレムの女子と其の小兒に對する配慮の爲に己の疲勞を忘れ、其の十字架に釘けらるゝに當りて、己を殺す罪人の爲の祈禱に心を奪はれ、其の磔刑の發初の楚痛を、悔改せる盜賊に對ふ喜憂、其の生母に新家庭を供ふる懸念の爲に忘れたり。**イエス**は實際此の時ばかり他人の利害の爲に自個を沒し、絕對的に博愛なる救主たりし事なし。

イエスは唯「彼」の愛を傷くるに由りてのみ能く傷くるを得。其の肉體の苦痛の如きは如何に劇甚にして又延長したりしにせよ、他の多數の受難者の苦痛より大なるとなからん。唯其の體格の精妙なるが爲め、其の苦痛の他に比して甚しかりしならんと思はるゝのみ。看よ「彼」は常人が二三日生存すべき十字架に於て、最も短く、唯五時間を出でずして死したり。「彼」の足を折らんとて來りし所の兵卒は、「彼」の既に死にたるに一驚を喫せり。**イエス**に於て最も慘痛なるは精神の慘痛なりき。**イエス**の生命は愛なりき。「彼」の愛に渇けること鹿の谿水を喘ぎ慕ふが如くなりき。然るに今や苦く暗き憤恨の怒潮「彼」を圍繞し、狂瀾、激浪を其の十字架の下に捲き上げたり。「彼」の靈魂は清淨にして點塵を着けず、其の生涯は至聖なりき。罪は恒に「彼」に觸れんとて壓迫し來れり、然れども「彼」の筋肉は忽ち退避して即かざりしなり。**サンヒドリム**の議員は率先して其の輕蔑的、惡意的憤慨を漏し、人民亦皆忠實に其の例に倣へり。此等の人々は「彼」が燃ゆるが如き至情を以て愛したりし者、今も猶ほ愛する者なりき。然して此の「彼」の愛を讒謗し、破壞し、蹂躙する者、即ち此等の人々なりしなり。生涯**イエス**を襲擊したりし所の惡魔は、今彼等の口を藉つて其の誘惑を貳びし、其の奇蹟の力を發して己を救ひ、國民の信用を贏ち得よと曰へり。其の面に怒を含みて**イエス**を環視する所の蜂起的群衆は、是れ實に人類の罪惡の梗概と見るべし。**イエス**の眼は十字架上より之を瞰下し、其の粗暴、其の狂妄、其の冒瀆、其の人性の醜辱の發溢を見て、「彼」の胸に聚まる痛感一束の矢よりも鋭かりしならん。

猶ほ更に奧深き悲哀ありき。今や世界の罪は獨り其の身邊よりして至仁至聖なる、「彼」の心に壓迫し來るのみならず、更に遠方より即ち遠き過去、遠き未來、遠き距離よりして、齊く來りて其の上に聚まれり。「彼」は世界の罪を負へり。而して「彼」の至仁

至聖の光の反對面たる神の烈火は、其の罪を燒き盡くすべく「彼」に向つて燃え起ちぬ。罪を知らざる「彼」をして、吾人に代りて罪せらるべく「彼」をして苦ましむること、是れ主の心に適へるなりけり。

如上是れ吾人を驚殺する所の十字架の苦痛なりき。然るに「彼」は約二時間にして更に其の眼を外界より閉ぢ、之を永遠界に向つて開けり。同時に異常なる暗黑、地上を掩ひ、**エルサレム**は俄に神の審判來れるかの如く、暗澹たる雲影の下に戰慄し、**ゴルゴタ**は殆ど神に見棄てられたる狀態なりき。「彼」は外界の闇黑と內界の闇黑との中に唯久しく沈默したりしが、遂に人の思想の測るべからざる沈痛の淵より叫び出だせり、「吾が神吾が神何ぞ我を棄てたまふや」と。嗚呼是れ受難者の靈が其の非命の死の底に觸れたる一刹那なりけるなり。

然れども其の闇黑は地より移りて日光再び照り出でたり。**キリスト**の靈も亦其の日蝕より出で來れり。「彼」は最終の苦悶に打ち克ちたる勝利の勇氣に充ちて叫べり、「事終りぬ」と。然かして「彼」は完全なる平靜の裡に、其の愛誦せる詩篇の一句を吟じて、其の最終の呼吸を曳きぬ、「父よ吾が靈を爾の手に託く」と。

復活及び昇天

蓋し此の世界に於ける事業にして、**イエス**の事業ほど忽然として其の終を告げし者なし。「彼」の事業は最終の舊約的安息日に於て俄然として其の終を告げたり、基督教は**キリスト**と與に死して「彼」と與に墓に葬られたり。吾人は固より此の二千年の後を回顧し、其の墓の口に轉ばされたる大石を見ても、何等の失望を感ずることなし。何となれば吾人は此の攝理の秘義を知り、後に何事の起り來らんかを知ればなり。然れども發初「彼」の新に葬られしときに當りては、「彼」が再び此の世の審判に先ちて、復活すべきことを一人として信ずる者無かりしなり。

猶太の有權者は全く此を以て其の心を滿足せしめたり。**イエス**の死は一切の諍論を葬り、彼等と**イエス**の間の事件を彼等の勝利に向つて決定せり。**イエス**は彼等の**メシヤ**として、自己を顯はしたりしかども、斯かる主張に適へる者として、彼等の認むべき

何等の休徴を示さゞりき。イエスは未だ嘗て重要なる國民的認識を受けざりしなり。「彼」の弟子等は少數にして、而して又無勢力の徒のみなりしなり。「彼」の生涯は短數にして、今既に墓に入れり。之より以上「彼」に就いて何等考慮すべき事物なかりしなり。

弟子等の挫折に至つては其の極に達したりき。イエスの捕拿せらるゝに當りてや、「彼等は皆「彼」を棄てゝ遁げたり」。勿論ペテロは獨り祭司長の邸までイエスを慕ひ往きしが、其の結果餘の弟子等よりも一倍破廉恥の失體を招きたり。ヨハネは獨りゴルゴタまで從ひ往き、其の最終の一分間までも、「彼」が十字架より降りてメシヤの榮位に即くべしてふ、望なき望を持したり。然れども最終の時既に至りて、何等の珍事も起らざりき。彼等に取りては憫然たる失望漢として其の故郷と漁業に返らん外、何等の爲すべき事ありや、誰か其の餘生を投じて此の僭稱者の足跡を追ひ、「彼」が汝等に約束せし十二の位は安くに在りやと憫笑せらるゝの愚を演ぜんや。

無論イエスは其の受難と死と復活に就いて預言せしこと數次なりき。然れども彼等は毫も此等の言辭を解せず。或者は之を遺忘し、或者は之を比喩語に轉解したり。而してイエスの現實に死せるに當りては、此等の言語今更に何等の慰藉をも提供せざりき。茲に數名の婦人あり、最初の新約的安息日に於てイエスの墓に來れり。是れ其の目的は其の墓の空しからんことを見る爲に非ず、茲に永眠するイエスの體に膏を塗らん爲なりき。マグダラのマリア倉皇使徒等に告ぐる所あるべく走りぬ。これイエスが復活したるを告げんとに非ず、イエスの死骸の取り去られて、其の所在を知らざることを告げんとなりき。此等の婦人が其のイエスを見たりしことを、他の弟子等に告げしに當り、「使徒たち其の語れる所を虚誕と意ひて信ぜざりき」。ヨハネが自ら錄せる如く、彼もペテロも「錄して、イエスの死より甦るべき事あるを彼等いまだ知らざるなり」。何物か又エマオに向ふ二弟子の語より哀むべきものあらんや。曰く「我等イスラエルを贖はん者は此の人なりと望みたりし」と。弟子等が一に聚まりしとき、「彼等哭き哀めり」とあり。蓋し世上未だ嘗てイエスの弟子等の如く失望落膽せしものなからん。

然れども吾人は今日寧ろ彼等が然かく哀みたりしことを喜ぶことを得、何となれば彼等が疑ひしは吾人の信ずるを得ん爲なりし故なり。看よ看よ僅に數日の後に於て此

の失望落膽に沈みし人々にして、確信と歡喜と**イエス**の復活の信仰に盈たされ、一たび其の終を告げたりし基督教の事業が、其の前に把持せしよりも數倍巨大なる活氣を以て進展し始めたるは何が故ぞや。彼等は曰く是れ**イエス**の復活したるが故にして、彼等は親く之を見たりと。彼等は親く其の空洞なる墓を見たること、**イエス**が**マグダラ**の**マリア**に顯はれしこと、其の他の婦人等に顯はれしこと、**ペテロ**に顯はれしこと、**エマオ**に向ふ二人に顯はれしこと、一時其の十一人に顯はれしこと、五百人に顯はれしことを語れり。此等の傳說は果して信憑すべき物とする乎。若し其の傳說のみ孤立したらんには、信憑すべからずと謂ふことを得べし。**キリスト**復活の確說は爭ふべからざる基督教復活の事實と併立せり。若しも前の事實を以てせずんば如何にして後の事實を說明すべき乎。人或は曰はん、**イエス**は其の實現するを誤りし帝國建設の夢想を以て、彼等の心に注入し、而して彼等一たび「彼」の堂々たる進達を見て、復た其の賤しき魚網に返ること能はず、竟に此の如き傳說を脚色して以て其の目的を達したるものならんと。又或は曰はん、彼等は其の謂ふ所の**イエス**の復活の事實を目擊したりと妄想せるのみにして、實は目擊したるに非ずと。然れども玆に驚異すべき事實は是れなり、即ち彼等が**イエス**に對する信仰を復活せしとき、彼等の追求する所の事物は既や現世的、物質的目的に非ずして、熱烈に精神的目的を追求せるを見る是れなり。彼等は復たび此の世の最高の位置を待望せず、返つて世間の迫害と死を待望せり。倘且彼等は喪心したるものに非ず、廣濶なる智慮と大膽なる熱心と、其の前に見聞せざりし將來の結果に對ふ確信とを持して、各其の新事業に自己を當てたり。**キリスト**が靈化的身體を以て死より復活したる如く、基督教も同時に靈化的復活を遂げたり。然り基督教は全く其の肉の身體を脫げり。何物が斯の如き結果を生じたる乎。彼等は答ふ、**キリスト**の復活と、其の顯現即ち是れなりと。然れども彼等の見證は未だ以て**キリスト**の復活を擧證するに足らず、其の爭ふべからざる確證は、即ち變化其の物に存す、即ち彼等が俄然勇氣を得、希望を得、信仰を得、智慧を得、世界の將來に於ける高尙有理なる見解を把持し、而して敎會を建て、世界を敎化し、人類の中に純粹なる基督敎を起すに耐ふる原動力を與へられし事實是れなり。彼の最終の舊約的安息日と僅々數日

を經たる此の時期の間に、此の如き爭ふべからざる一大變化の起りたるに於ては、此の如き至大なる結果を生ずるに足るべき至大なる原因として思惟せらるゝ何等かの一大事件の、其の數日の間に介在したるべきは疑ふべからざる事なり。而して唯復活の一事のみ此の問題に應答す、是故に此の事件は古來の有らゆる事件よりも數等明白なる論辯に依りて證せられたり。(譯註、暗にパウロの哥林多前書第十五章の辯證の如きを指せり)此の事件が此の如き辯證に當るに足ることは、至幸なる事と謂ふべし。何となれば若しキリスト復活せざりしならば、吾人の信仰は徒爾たるのみ。然れどもキリスト果して復活したりしならば、其の奇蹟的生涯の全體は皆信憑すべき物となるべし。復活其の物是れ即ち奇蹟中の最大奇蹟なるが故なり。且又イエスの聖職の神より出でしとも亦之に依りて證明せらる。何となれば「彼」を復活せしめたる者は神ならざるを得ざるが故なり。而して又歴史上に立てる正確なる視線は、明亮に來世の存在を認むるを得。

復活したるキリストは、其の眞實なることを以て其の弟子等の心を滿足せしむる間、猶ほ此の地球上に滯在したり。彼等は輙く信ぜざりしなり、使徒等は發初此の報道を齎し來りし婦人等を待つに、侮蔑的不信を以てしたり。使徒等の概して信ずるに至りし後にも、獨りトマスは此等使徒の見證を疑ひぬ。イエスがガリラヤの山にて五百の弟子群に顯はれしとき、其の目を疑ひ、僅にイエスの聲を聞いて信ぜし者も亦許多なりき。イエスが此等の危疑者を待ちし所の慈愛的忍容は、其の顯現せる身體の、幾分か生前に異なる者ありしにも拘らず、其の心情は分毫も相異なるなきを示すに足れりき、此の一事は其の榮化したる身體を以て顯はれし場所に於て、毎に切實に示されたり。此等の場所は昔日「彼」が屢往いて或は祈り、或は語り、或は勞し、或は苦みし所にして、之を擧ぐればガリラヤの山、ガリラヤの海、橄欖の山、ベタニヤの村及び殊にエルサレムの市なりき、此の市は「彼」を殺したる者なるに、「彼」は猶ほ之を愛して已む能はざりしなり。

然れども玆に「彼」が既や此の世の屬ならずと云ふ多樣の特徴之ありき。第一に「彼」の復活せる人身に附ける新奇なる謹愼ありて、マグダラのマリアが跪いて其の足に接吻せんとせしときに、「彼」はマリアの己に觸るゝを禁めたり。第二に「彼」は神秘的迅速

を以て其の弟子間に顯はれ、亦遽然として其の中より消えたり。第三に「彼」は其の弟子の伴侶たること唯隨時的にして、復た前日の不斷的親交を許さゞりき。然かして竟に四十日の終に於て、「彼」が地上に滯在したりし目的十分遂成せられ、使徒等が段に歡喜滿足の力を得て「彼」の生涯と其の事業の福音を、萬國の民に傳へんと決意せしとき、「彼」の榮化せし人身は、其の當然歸るべき天の所に接けられ了りぬ。

結論

蓋し人一たび人間世界に顯はるゝや、其の身は其の表面より消ゆるあるも、其の生命は決して此の世界に對つて消ゆることなし。其の生命は必ずや人類の發展的生命の大潮に加入して、其の全力を竭くして永久に活動するものとす。是故に人物の眞容量は、唯其の死後に活動する所の感化力に依りてのみ測量せらる。**イエス**に於ても亦然かり、四福音書の平凡なる記述は、**イエス**の生命の終を告ぐるに當りて、何等造化力の之より勃興すべき期待を吾人に與へざりき。近世の世界に波及せる所の「彼」の感化は、實に「彼」の如何に偉大なりしかを證せり。何となれば其の結果の偉大なるが如く、其の原因も亦偉大ならざるを得ざればなり。「彼」の感化力は人世の始終を覆ひ、之をして精神的青春の陽氣を以て華かしむ、恰も大陸の中央を灌流する江河の、丘山より降る百川を吸集するが如く、「彼」の感化力は有らゆる感化力を吸集して己に併せぬ。其の品質に至つては、又其の分量の特異なるよりも數等特異なるを見る。

然れども「彼」は抑も何人なりやと云ふことを示す最も貴重なる證據は、近世の歷史に具在せるに非ず、教會の通史に發見すべきに非ず、獨り基督時代を通じて繼續し來り、其の手を延べて「彼」の衣に觸るゝ所の眞正の信者の中に見るを得べきのみ。「彼」に由りて自己の罪、此の世の罪より救ひ出されたる、無數靈魂の實驗は、人類の連鎖に屬せざりし此の一大改革者、人類の資源より生れざりし此の聖者、此の完全なる模範此の萬人の中なる眞人の顯はれたる事に因りて、此の世界の歷史の前後に兩斷せられれることを確證するに非ずや。一面には此の神の子の高潔なる聖德を感じ、一面には自

個の劣悪なる罪性を自覺しながらも、尚且「彼」の聖潔なる生涯の最終目的は、神と人とを和解せしむるに在ることを見て喜び得る所の無數良心の實驗は、此の歴史の中間に於て、罪惡なる人類と至聖なる神と調和すべき途の開かれたることを證せるに非ずや。**キリスト**の言に其の目を潔められて、一點の暗處なき光なりける神を見ることを得たる無數人心の實驗は、世界に於ける實在者の此の最終の默示は、己の神たることを十分に知悉したる**キリスト**に由りて宣べられしことを證するに非ずや。

キリストの生命は歴史に於て消ゆることなし。「彼」の感化力は時代と與に愈々加はり、衰亡せる國民は之に感じて復活せんことを待望し、新に此の新天新地に入りし民種は之に觸れて更生せんことを熱望す。近世史上の有らゆる發見、人類に於いて愈々向上發達する所の正義の觀念、慈愛、美妙の感情は、皆唯「彼」を解釋する資料たるに過ぎざるのみ。人類の目的は他なし、此の生命を昂進して、「彼」の思想と人格の平準に到達せしむる是のみ。

基督傳 終

明治四十二年十二月二十日印刷
同　年十二月廿三日發行

不許複製

飜譯者　宮崎八百吉　東京府下瀧ノ川村字中里二六二番地
發行者　ジョージ、ブレスウエート　東京市赤坂區氷川町五番地
印刷者　高塚慶次　東京市京橋區弓町二十四番地
印刷所　三協印刷株式會社　東京市京橋區弓町二十四番地

發賣元　東京市麴町區有樂町二丁目三番地　基督教書類會社
振替貯金口座東京二二七三番

ストーカー博士著

●耶穌基督傳（英文）

定價七十五錢　郵稅八錢

本書は宮崎氏が飜譯せられたる基督傳の原書にしてニアンデルフアーラーゲーキー諸大家の基督傳を凌いで優に一地歩を占め此の種の著書中の白眉と稱せらる譯書同樣愛讀を希ふ

●舊約釋義

イーデルシャイム博士著
ハインド敎師譯

上卷　定價九十錢　郵稅八錢
中卷　同一圓八十錢　同十二錢
下卷　同一圓五十錢　同十二錢

猶太の歷史、文學、禮式、習慣等に精通せると著者博士の如きは神學者中稀に見る所なり況んや本書は博士が最も得意とする所の研究にして考證該博、議論穩健、苟も舊約聖書を學ばんと欲する士の必ず一本を其の机上に備へざるべからざる良書なり

●比喩釋義

トレンチ大監督著
ハインド敎師譯

定價一圓　郵稅十二錢

●奇跡釋義

定價一圓　郵稅十二錢

基督傳を研究する者にしてキリストの語り給へる比喩、行し給へる奇跡に就て明快なる說明を得んと欲せば須らく此の兩書を繙くに若かず其の說明や親切懇到何人も首肯し得て餘蘊なし

●聖書研究の快樂

ムーデー氏著
三浦徹君譯

上製　定價四十五錢　郵稅六錢
並製　同三十五錢　同六錢

如何にして聖書を研究せば最も愉快に最も趣味深かるべき乎本書は其方法を明示したる者なり讀者之に依て研究せば不知不識聖書に通曉するに至り其快樂と利益や蓋し言ふべからざるものあらん

●聖句便覽

定價七十五錢
郵稅八錢

本書はムーデー氏が「聖書研究の快樂」中に研究者必携の書として推薦したる者にして數百の題目に就て一々聖書の出典を示し更に數千の細目に涉り一々聖句を引照したれば說敎者、日曜學校敎師は勿論一般聖書研究者が聖句を搜索するに最良の指南車なり

ニ1157

天路歷程

バンヤン著
池亭吉君譯

正編
並製三十錢
同　五十五錢
上製七十錢
郵税各八錢

續編
並製四十五錢
上製六十錢
郵税各八錢

合本
上製一圓廿五錢
特製一圓六十錢
郵税各十二錢

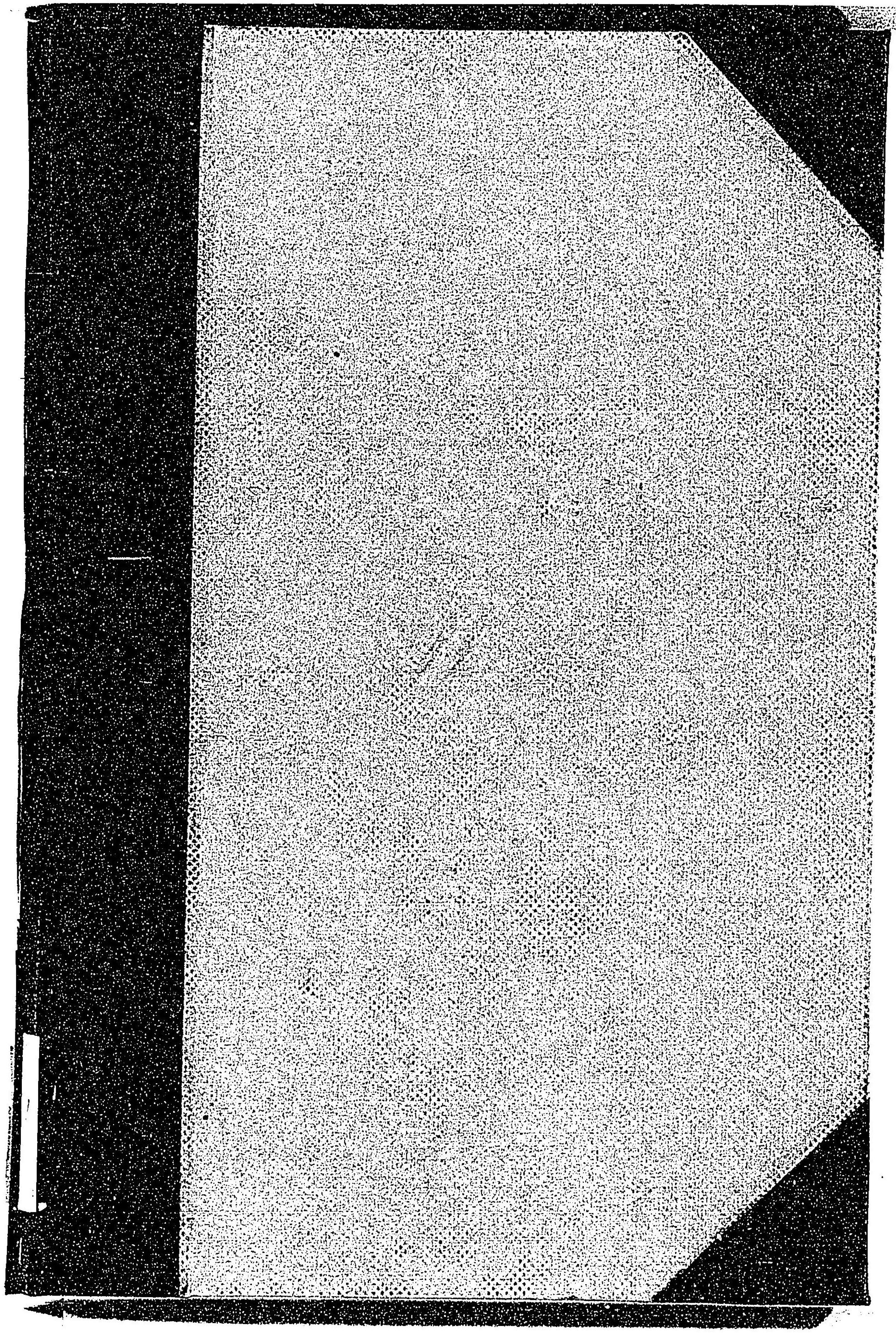
基督教新聞評

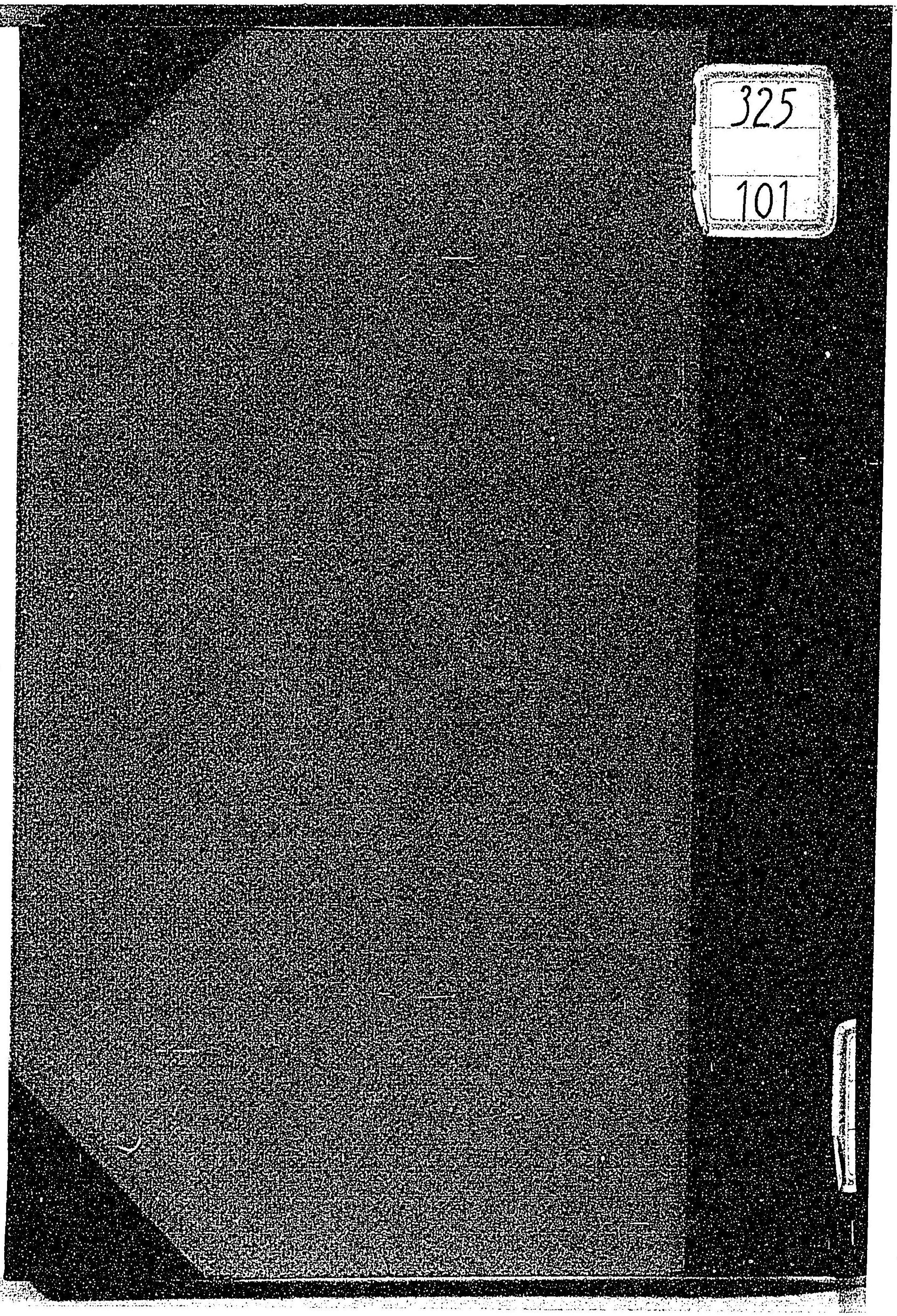
原書は歐米に於て第二の聖書として珍重せられ天下に比ひなき珍書として愛讀せられて居るところの實用的聖書とも云ふべき書物で年中幾度繰返して讀むとも常に新しき味ひがあり又靈の糧を得ることができる斯る偉大なる書物が邦語に譯せられたのは誠に嬉しい殊に譯文は流麗で雅で平易である未だ本書を繙きしことなき人は是非一本を求めて讀まれんことをお勸め申す云々

發賣元

東京市麴町區有樂町二丁目三番地
基督教書類會社
振替貯金口座東京二二七三番

目録は本書廣告にて見たる旨を附記して御申越次第呈送致候





020550-000-2

325-101

基督伝

ゼームズ・ストーカー／著

M42

ABI-0363

36.12.19